

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100267		
法人名	株式会社 カルミア		
事業所名	グループホーム咲花唐山		
所在地	名古屋市千種区唐山町1丁目41番地		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	kalmia-fukushi.com
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・マンネリ化を防ぐ為に、日々のレクリエーションや外出、月のレクリエーションには力を入れています ・その他にもADLの低下を防ぐ為に口腔体操後の足の運動や積極的に利用者様にやれること、出来ることはやって頂いています ・清潔保持として掃除などもチェック表を作るなどして職員全員で力を入れています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念の「笑顔でくらし仲間だね」を念頭に、職員がまず率先して笑顔で利用者に向き合い、利用者を和ませ穏やかに笑いのある生活実現を目指している。日々楽しく取り組めるようにと、ユーチューブを用いた体操を行ったり、作品展と称し各フロア大きな作品制作に力を入れ活気に繋げている。また、祭りや芋煮会、運動会、餅つき、クリスマス会等々、皆で楽しむ笑顔にする施設行事を催している。施設内は掃除が行き届き、明るく清潔な印象を受ける。その他、提携医と訪問看護との連携体制を整えており、終の棲家として利用者も家族も安心して暮らせる環境作りに努めている。以上の点から地域密着型施設としての機能を果たしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑ってくらそ仲間だでね』という理念に対し、利用者様、職員が笑顔が多く過ごせられるように心掛けています。職員個々も笑顔が多く、実践出来ていると感じています。新しく入社した職員は理念を把握出来ていない所がある為、共有していきたいと思いま	理念は玄関や各フロアーの目に付く所に掲げている。フロアー会議で理念について具体的に話し合う等、職員全体に意識づけをしている。利用者が楽しく生活するには職員も楽しくと、笑顔が沢山見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の大掃除への参加、子供神輿に利用者様と一緒に参加させて頂いたり、地域運営推進会議への参加して、意見を述べてもらっています。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得て学区の祭りや掃除に定期的に参加し、地域貢献に努めている。日頃の散歩時には住民と挨拶を交わし、地域の一員として溶け込んでいる。夏祭り等、施設行事には直接住民に声を掛け参加を促している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方や御家族の方々に認知症の方の説明やどのように支援をしているかなど質疑応答にてさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3に記載をしたように質疑応答や、意見交換などでの意見を反映し、サービス向上へと活かしています。	年に6回推進会議を実施し、施設行事のスナップ写真を用いて日頃の様子や運営状況を報告して取り組みを周知している。認知症の行動等について、専門的なアドバイスや意見交換の場として活かされ、家族や参加者への理解や認知症ケアの実情を共有する事で協働関係を築けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者様との連絡は密にとっており、協力関係は築けていると思います。	区担当者とは介護申請や生活保護利用者の相談等、直接出向き、時には利用者も同伴で話をする機会を設けている。また、入居の空き状況についての問い合わせもあり、相互に協力関係を築いている。研修の参加やグループホームの連絡協議会に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを心掛けていますが、施設が、交通量の多い、交差点角という立地環境なので、利用者様の安全のため、フロア入り口は、オートロックとなっています。	社内勉強会では、玄関の施錠や声掛けでの行動制止等の拘束に当たる行為についての具体例を挙げ、身体拘束への認識を統一、意識付けをしている。また、日頃のケアで何気ない言葉や行為があればその場で注意すると共に、申し送り時や連絡ノートにて職員全体に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように職員同士も注意を払っています。利用者様の些細な変化でも情報共有を行う様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について把握できていない職員が多いと思うので、学べる機会を設けて今後活かしていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しての説明はしっかりと行っています。契約時に、不安点、疑問点はないか確かめた上で契約をしています。解約時も同様に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様とは直ぐに連絡を互いに取れるようになっていますので、連絡や運営推進会議なので、御家族様な意見や要望は可能な限り対応させて頂いています。利用者様の意見や要望も可能な限り対応させて頂いていると思います。	利用者や家族から出た要望や意見は職員間で検討し、取り組める事は即実施し改善に向けて取り組んでいる。家族の意向は面会時や電話で聴き取るよう努めている。利用者からの外出や買い物等の要望は業務を調整したり、家族と連携を図り叶える様に支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を設け、職員からの意見交換を行っています。職員からの意見や提案はみんなで話し合い反映をしています。	職員とはフロアー会議で意見を集約すると共に、個別に話をする機会を設け良好な関係作りに努めている。希望休や研修の希望は叶えている。また、レクリエーションや業務改善の案について取り入れており、働き易い環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、実績は把握出来ていると思います。職員の悩みや要望、問題がないかなど個々に聞くように心掛けています。	a	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などがある際は、積極的に職員に参加してもらっています。職員に応じてそれぞれ研修をお勧めしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所内での同業者との交流は行っていますが、同業者が集まる勉強会や研修などへの参加の声かけなどを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通ができる方に関しては、初期段階でしっかり話をし、少しでも安心して過ごしてもらえるようにしています。入居をされた後も二人の時間が出来た際は、話をするように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を行う前から、御家族様とお話をし不安や、要望を聞くようにしています。利用者様が入居された後も、直ぐに連絡を取れるようにさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約や入居の際、趣味や好きなこと苦手なこと、不安なことを聞きその時に必要にしている支援を行う様に心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様との関係は良く、利用者様が気軽に何でも言えるような関係性を気付かせているように思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の事で不安がないようにしっかり連絡、報告を行っています。御家族様からの連絡もしっかり対応させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様に会いに来られた馴染みの方などの関係は大切にしてもらっています。	友人や孫、親戚等の来所があり、居室でゆっくり過ごしてもらえる様配慮している。年賀状や手紙が届いたり、手紙出しや電話を取り継ぎ等の支援もしている。家族と連携し、帰省や墓参り、外食等の馴染みの場への外出も叶えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様皆さんで行うレクリエーションを行ったり、フロアにて共有時間を作るなど支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した後でも、相談などの連絡が来た際は支援をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々の思いや希望の把握を出来るように努めていますが、全ての利用者様の把握は出来ない所があるので、把握が出来るように努めていこうと思います。	リビングで流れているテレビ番組の何気ない言葉や、新しい入居者に自己紹介してもらいそこから広がる会話、あるいはぼつぼつとされる単語から話題を広げ、表情や体の動きに気を付けることで、利用者一人ひとりの思いや好み、希望などを読みとり、職員同士で共有し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしの把握は、完璧に理解出来ない点もある為、把握を出来るように努めていきたいと思っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態は少しの変化でも気付られるように注意を払い、過ごしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成にあたっては、作成者、本人、御家族様、関係者様としっかり話し合い納得した上で作成をしています。	3か月または6か月ごとの見直しをしており、見直しが近い利用者についてはリーダーを主に職員がモニタリングをし、素案を家族に説明、話し合っただけで了解を得られたら新しい計画書を作成、それをもとに支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化でも記載し、申し送りで情報共有をしています。月に1度の会議でも利用者様のケアに対しての見直し、共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一日の決まった流れはありますが、その時に応じてケアのやり方を変えたり、御家族様と話し合い変えたりと臨機応変に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に心掛け、利用者様に楽しんで暮らして頂けるように支援を行っていると思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師との連携も行っている為、本人の状態などを往診時にもお伝えしています。	もともとのかかりつけ医を受診することも可能であるが、現在は内科については全利用者が協力医を選んでいる。協力医は24時間連絡が可能で、訪問看護との連携もとられている。皮膚科、歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携をとっている訪問看護師は24時間対応なので、何かあれば直ぐに連絡を下さったり、当事業所からの連絡も直ぐに対応して下さいます。個々の状態をお伝えし、適切な往診をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、当事業所と病院関係者様と連絡をしっかりと行っています。現状の様子や退院予定などの情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたケアは御家族様や、訪問看護師、かかりつけ医師と話し合い、どのようなケアにしていくかなどをお伝えしています。連携はちゃんととれている思います。と	入居の際に看取りについての説明も行っている。今年度も実際看取りがあり、家族や利用者の意向をもとに協力医と管理者、家族の話し合いがもたれ、訪問看護も利用し、家族も利用者を見舞いながらのうちに穏やかな最期を迎えられた方がいる。職員には管理者からミーティングなどで看取りについてその時ごとに指導がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて把握してもらっています。ただ、まだ実践的に対応したことがない職員もいる為、定期的に行っていきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修にて全職員に把握してもらっています。新しい職員へ共有は出来ていないので、また改めて行っていききたいと思います。地域の方達とは、消防訓練などを通し協力しています。	年に二度の避難訓練が計画され、今年度は5月に昼間設定で玄関先までの避難訓練を実施、年度中に消防署の指導を受け夜間想定で訓練を行う予定がある。回覧板や運営推進会議を通して地域の人と協力体制を築けないか検討中。備蓄食料も用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の性格に応じて声かけなど対応をさせて頂いています。	職員が利用者居室に入る時には必ず一声かけ了解を得るようにしている。呼称については利用者の好むものにし、苗字ではなく名前で呼びかけている人もある。尊重はしてもよそよそしい話しかけにならないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が何をしたいか、どっちがいいのかなど選択肢をだしたり、どうしてほしいかなどに耳を傾けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をするにも利用者様からの意見を聞くようにしています。本人がやりたいこと、どうしたいかなど本人の希望にそえるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服装は、本人と一緒に選ぶようにしています。着替えたい方は、自由に着替えをして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来ることは職員と一緒に食器拭きや、お盆拭き、消毒、食器洗いなど行っています。	業者の食材を利用し、事業所で調理している。里芋の差し入れがあった時には急遽芋煮会が開かれ、餅つきの際にはお豆腐白玉を利用したぜんざいをふるまうなど、宅配にこだわらず食事を楽しめる工夫がなされている。おやつレクやおせちなどの特別食もある。利用者の状態に応じ食事の形態も変えるが、なるべく見かけは同じにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は必ず記載しているため、個々への状況把握や支援は行えていると思います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアも41と同様に記載しているため、清潔保持は行えていると思います。訪問歯科による往診もあるため、状況把握は出来ていると感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来る利用者様にはオムツの使用はなくトイレで行って頂くようにしています。時間でトイレの声かけを行うなどの支援も行っていきます。	利用者の状態を見ながら、チェック表をもとにトイレ誘導を行い、立ち上がれる利用者にはなるべくトイレまでいって排泄してもらうことで、おむつがリハパンに、寝たままからトイレ利用にもどった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の把握は申し送りなどで便秘になりやすい利用者様の便がどれだけ出でないかなどを情報共有し、便秘が続くようなときは、訪問看護師に相談し、指示をもらって対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、基本は曜日固定になっていますが、その時の利用者様の状況によって、次の日に変更したり、本人が納得して入浴できるよう支援しています。	基本、週に3回の入浴をしてもらっている。拒否のある人には、担当者を変えたり、声をかえたり、あるいは入浴日を変えることで気持ちよく入浴できるよう支援している。うまく拒否を乗り越えられたことは職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は本人が寝たい時に寝て頂くようにしています。夜間時はあまりに遅いと入床の声かけはさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に、利用者様個々の薬の説明書を入れてあり、フロアスタッフ一同で、確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様がしたいこと、やりたいことはやって頂くようにしています。嗜好品などの楽しみもして頂くなどの支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々難しい時もありますが、基本は本人が外出したいと言われたときは、職員と共にして頂いています。少し距離がある所などは、車で一緒に外出しています。	天気がよければなるべく散歩に出ている。おやつや買物に出たり、利用者の要望があればできる範囲ではあるが応じている。東山動物園へ遠足したり、花見など遠出することもある。系列他施設に移った人を訪ねて出かけたりにしている。家族が喫茶店や実家へ連れていってくれることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が金銭を持って生活することはないですが、本人が使いたい時に使えられるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話がしたいと言われたときや、手紙を出したいと言われた際は支援させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不快にならないように共同スペースや、居室の清潔保持や温度調節は心掛けています。	開放感のあるリビングには利用者が作った製作物が飾られており、またリビングの一角にはテレビを真ん中にソファがおかれくつろげる場所となっている。ソファを片づけると広い空間ができ、体操やボランティアの演奏などが楽しめるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や共同スペースは本人が好きなように使って頂いています。テレビを好きなように変えて頂いたりして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に御家族様に使っていた物を持ってきていただいたり、本人が生活しやすい様な環境作りの支援をさせて頂いています。	タンスや仏壇、椅子など慣れ親しんだ家具がもちこまれ、それぞれに使いやすいよう配置されている。大きなぬいぐるみがおかれたベッドがあったり、家族の写真や遺影が飾られていたりし、個性や好みが見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段とエレベーターがあったり、手すり、トイレなども車椅子が使えるような設計になっています。家に近いところもありますが、安全に過ごして頂けるようになっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100267		
法人名	株式会社 カルミア		
事業所名	グループホーム咲花唐山		
所在地	名古屋市千種区唐山町1丁目41番地		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	kalmia-fukushi.com
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・マンネリ化を防ぐ為に、日々のレクリエーションや外出、月のレクリエーションには力を入れています ・その他にもADLの低下を防ぐ為に口腔体操後の足の運動や積極的に利用者様にやれること、出来ることはやって頂いています ・清潔保持として掃除などもチェック表を作るなどして職員全員で力を入れています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑ってから仲間だよね』という理念に対し、利用者様、職員が笑顔が多く過ごせられるように心掛けています。職員個々も笑顔が多く、実践出来ていると感じています。新しく入社した職員は理念を把握出来ていない所がある為、共有していきたいと思いま		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の大掃除への参加、子供神輿に利用者様と一緒に参加させて頂いたり、地域運営推進会議への参加して、意見を述べてもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方や御家族の方々に認知症の方の説明やどのように支援をしているかなど質疑応答にてさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3に記載をしたように質疑応答や、意見交換などでの意見を反映し、サービス向上へと活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者様との連絡は密にとっており、協力関係は築けていると思います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを心掛けていますが、施設が、交通量の多い、交差点角という立地環境なので、利用者様の安全のため、フロア入り口は、オートロックとなっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように職員同士も注意を払っています。利用者様の些細な変化でも情報共有を行う様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について把握できていない職員が多いと思うので、学べる機会を設けて今後には活かしていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しての説明はしっかりと行っています。契約時に、不安点、疑問点はないか確かめた上で契約をしています。解約時も同様に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様とは直ぐに連絡を互いに取れるようになっていますので、連絡や運営推進会議なので、御家族様な意見や要望は可能な限り対応させて頂いています。利用者様の意見や要望も可能な限り対応させて頂いていると思います。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を設け、職員からの意見交換を行っています。職員からの意見や提案はみんなで話し合い反映をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、実績は把握出来ていると思います。職員の悩みや要望、問題がないかなど個々に聞くように心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などがある際は、積極的に職員に参加してもらっています。職員に応じてそれぞれ研修をお勧めしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所内での同業者との交流は行っていますが、同業者が集まる勉強会や研修などへの参加の声かけなどを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通ができる方に関しては、初期段階でしっかり話をし、少しでも安心して過ごしてもらえるようにしています。入居をされた後も二人の時間が出来た際は、話をするように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を行う前から、御家族様とお話をし不安や、要望を聞くようにしています。利用者様が入居された後も、直ぐに連絡を取れるようにさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約や入居の際、趣味や好きなこと苦手なこと、不安なことを聞きその時に必要にしている支援を行う様に心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様との関係は良く、利用者様が気軽に何でも言えるような関係性を気付けているように思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の事で不安がないようにしっかり連絡、報告を行っています。御家族様からの連絡もしっかり対応させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様に会いに来られた馴染みの方などの関係は大切にしてもらっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様皆さんで行うレクリエーションを行ったり、フロアにて共有時間を作るなど支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した後でも、相談などの連絡が来た際は支援をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々の思いや希望の把握を出来るように努めていますが、全ての利用者様の把握は出来ない所があるので、把握が出来るように努めていこうと思います。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしの把握は、完璧に理解出来ない点もある為、把握を出来るように努めていきたいと思っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態は少しの変化でも気付られるように注意を払い、過ごしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成にあたっては、作成者、本人、御家族様、関係者様としっかり話し合い納得した上で作成をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化でも記載し、申し送りで情報共有をしています。月に1度の会議でも利用者様のケアに対しての見直し、共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一日の決まった流れはありますが、その時に応じてケアのやり方を変えたり、御家族様と話し合い変えたりと臨機応変に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に心掛け、利用者様に楽しんで暮らして頂けるように支援を行っていると思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師との連携も行っている為、本人の状態などを往診時にもお伝えしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携をとっている訪問看護師は24時間対応なので、何かあれば直ぐに連絡を下さったり、当事業所からの連絡も直ぐに対応して下さいます。個々の状態をお伝えし、適切な往診をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、当事業所と病院関係者様と連絡をしっかりと行っています。現状の様子や退院予定などの情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたケアは御家族様や、訪問看護師、かかりつけ医師と話し合い、どのようなケアにしていくかなどをお伝えしています。連携はちゃんととれていると思います。と		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて把握してもらっています。ただ、まだ実践的に対応したことがない職員もいる為、定期的に行っていききたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修にて全職員に把握してもらっています。新しい職員へ共有は出来ていないので、また改めて行っていききたいと思えます。地域の方達とは、消防訓練などを通し協力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の性格に応じて声かけなど対応をさせて頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が何をしたいか、どっちがいいのかなど選択肢をだしたり、どうしてほしいかなどに耳を傾けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をするにも利用者様からの意見を聞くようにしています。本人がやりたいこと、どうしたいかなど本人の希望にそえるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服装は、本人と一緒に選ぶようにしています。着替えたい方は、自由に着替えをさせて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来ることは職員と一緒に食器拭きや、お盆拭き、消毒、食器洗いなど行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は必ず記載しているので、個々への状況把握や支援は行えていると思います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアも41と同様に記載している為、清潔保持は行えていると思います。訪問歯科による往診もある為、状況把握は出来ていると感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来る利用者様にはオムツの使用はなくトイレで行って頂くようにしています。時間でトイレの声かけを行うなどの支援も行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の把握は申し送りなどで便秘になりやすい利用者様の便がどれだけ出でないかなどを情報共有し、便秘が続くようなときは、訪問看護師に相談し、指示をもらって対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、基本は曜日固定になっていますが、その時の利用者様の状況によって、次の日に変更したり、本人が納得して入浴できるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は本人が寝たい時に寝て頂くようにしています。夜間時はあまりに遅いと入床の声かけはさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に、利用者様個々の薬の説明書を入れてあり、フロアスタッフ一同で、確認するようにしています。。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様がしたいこと、やりたいことはやってみて頂くようにしています。嗜好品などの楽しみもして頂くなどの支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々難しい時もありますが、基本は本人が外出したいと言われたときは、職員と共にして頂いています。少し距離がある所などは、車で一緒に外出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が金銭を持って生活することはないですが、本人が使いたい時に使えられるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話がしたいと言われたときや、手紙を出したいと言われた際は支援させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不快にならないように共同スペースや、居室の清潔保持や温度調節は心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や共同スペースは本人が好きのように使って頂いています。テレビを好きなように変えて頂いたりして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に御家族様に使っていた物を持ってきていただいたり、本人が生活しやすい様な環境作りの支援をさせて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段とエレベーターがあつたり、手すり、トイレなども車椅子が使えるような設計になっています。家に近いところもありますが、安全に過ごして頂けるようになっています。		